

平成30年2月16日

石狩平原カントリークラブ

理事会 御中

高橋 英美

今回は、緊急理事会を開催いただきありがとうございました

ここで、私の最後の石狩平原カントリークラブへの今までの思い、これからのクラブへの希望をのべさせていただきたいと思えます

この場で議論するつもりはありません

理事会で、我々の手紙を平原へ持ち帰り、理事会でまた委員会で検討されれば幸いです  
ゴミ箱へすてるのも選択肢の一つです。

今回の件では、クラブの対応があまりにも悪いので北海道ゴルフ連盟へ相談に行っています。

その時の話の中に、畑理事長の話が出てきました

平成14年石狩平原カントリークラブが破たんした時の畑理事長の石狩平原の再建のために、北海道ゴルフ連盟へ何度の足を運んでいたと聞きました。

今回の件では、我々もこの時の畑理事長の苦勞に比べると足元にも及びませんが、石狩平原カントリークラブへの思いは、畑理事長の思いに負けないくらい我々は持っていました

我々は、クラブ側及び競技委員長からそれぞれの期待を受け、競技委員を受理し期待を裏切らないように動きました

そして数年たち競技委員の活動なかで「だれが考えてもおかしい。また、こうすればよくなる」と思うようになり、委員会へ提案資料として平原への思いと一緒に提出しました

その結果はどうでしょう、クラブから競技委員会からの退会と他の委員会へ打診でした  
競技委員会からの退会理由をクラブ側に問うと我々が入る前と同じ「平原会で競技委員をまとめたい」との回答

我々は、クラブ側及び競技委員長の期待に答え、他の競技委員以上に動いていたと思えますが、ようするに「部外者の排除」という結果になりました

このままでは、今までの競技委員としての苦勞と平原の思いが水の泡になってしまいますので  
思い、竹口社長・畑理事長へ11月初旬に提出しました

11月12日の合同委員会までには、おふたりに目を通していただける、合同委員会で何か動きがあるであろう期待しました

また竹口社長への手紙は、ワープロで冷たく感じる所以我々が、直筆で心を込めて書いた原本を送りました

竹口社長・畑理事長からはなにひとつ回答はありませんでした。

その後クラブ側へ合同委員会での我々の提案資料に対しての協議の結果を聞いても、協議されたかどうか、結果はどうだったかも回答はありませんでした

今回の件では、我々が悪いのでしょうか

なぜ、委員会、石狩平原カントリークラブ、石狩スポーツ振興(株)はなに一つ動いていただけなかったのでしょうか、疑問でなりません

私は、これからこういう問題が起こらないようにするには下記のように考えます。

委員会は ゴルフ規則第1章エチケット

ゴルフの精神

礼儀正しさと、スポーツマンシップを常に示しながら洗練されたマナーで立ちふるまう

石狩平原カントリークラブは、

2007年クラブ会報に畑理事長（当時副理事長）のコメント

ホームコースのメンバーとしていろいろな面で物申したいことが出てくる。当然、より良いコース環境を願ってのこと、ゴルフ場もこのことを真摯に受け止めできる限り対応を早急に行っていく

当ゴルフ場は「会員と共に」をモットーに再開された。

石狩平原カントリークラブへの「建設的な元気な活」を沢山与えてくださいますようお願いします

これは、石狩平原カントリークラブが破たんし再開後の畑理事長のコメントの一部ですがこれはゴルフクラブとしての永遠のテーマだと思います。

石狩スポーツ振興(株)は

親会社、竹口社長の務めている山王総合(株)の社員心得

- ・謙虚にお客様の要望に耳を傾けよう
- ・勇気を奮って新しいことに挑戦しよう
- ・信念を持って目標を高く掲げよう
- ・常に現状を改善する精神を養おう
- ・人にやさしく共に成長する努力を続けよう

これは、サービス業としてのお手本の社員心得だと思います

理事のみなさん、一度一考してみてはいかがでしょうか

最後に、私からの石狩平原カントリークラブへのお願いの項目を挙げました

- ・理事会及び委員会が、平原会会員以外に第3者の委員をふやしてほしい
- ・一般会員の意見希望の受け付けの窓口を設けてほしい、そして早々に回答してほしい
- ・競技委員会は、ごく一部の委員で決定されて閉鎖的である
- ・競技委員会主催公式戦の受け付けは競技委員会で行ってほしい
- ・女性会員を大切にしてほしい
- ・A・Bクラス混合競技会のHCの扱いをA・Bクラス平等にほしい

あげるときりがありませんが、すべて一度にとはいけません。

現状のままでは何も変わりません

伝統を守ることもいいと思いますが、悪い伝統はすぐに修正すべきだと思います

時代は進み世代も変わり考えたも変わっています

それに対応しなければ、時代に取り残されていきます。

今回の緊急理事会は、我々に対して石狩平原カントリークラブとして「回答しない」と結論が出ているのに、畑理事長のこころづかいにより開催されたと聞いております。

感謝しますが、「回答しない」と「今回の申しでが2名にも関わらず1名の出席の案内」に納得がいらず北海道ゴルフ連盟へこの件で相談に行っています。

最後に連盟より「お二人とも、ゴルフを嫌いにならないでください。これからもゴルフを楽しんでください。そしてすばらしいゴルフライフにしてください。」という言葉いただきました。北海道ゴルフ連盟が我々の申し手に対しての回答と理解しました

20年間石狩平原カントリークラブでメンバーとしてプレーさせていただきました

「石狩平原カントリークラブが大好きです」なお一層よいクラブになるよう思いをぶつけましたがこんな結果になるとは思いませんでした。

これを機に、北海道ゴルフ連盟からの言葉通り「ゴルフ楽しむ」ことを選択しました

長い間、ありがとうございました

平成 30 年 2 月 16 日

本日はこのような立派な会にお呼びいただき感謝いたします  
ありがとうございます

しかしながら何故今日なのでしょう

もっと早くに、このような大げさな場でなくても良かったのではないのでしょうか

そもそも事の始まりは昨年 10 月上旬の合同委員会に私達が提出した委員会での議題提案書の皆様方の扱われ方から始まりました

それについて取り上げられることもなければ何も協議されず、その提案、提案書そのものがないがしろにされ、再三の私達の回答要求に支配人も競技委員長も誰も答えてはくれませんでした

その時点で誰かが・・・いや、一番身近な窓口であった支配人がきちんと対応し、丁寧な説明を私達にしてくださっていただければ社長や理事長宛の抗議文書を送ることはありませんでした

ところがその<sup>抗議</sup>講義文書に対しても何の対応もありませんでした

#### ●社長

私達の抗議文書が届いたときに「放っておけ、二人（私達）がどういう行動に出るか様子を見る」と支配人に指示されたと聞いております

社長が率いる会社の社員心得の一つに以下の項目があります

「謙虚にお客様の要望に耳を傾けよう」

私達は競技委員である前に安い額であっても保証金を払い年会費も収めている客なのです  
その客に対してこの数か月間の会社及び社長の態度はいかかなものなのでしょう  
会社社員の心得とは相当かけ離れていたと考えられませんか

#### ●支配人

自分が返事に苦しみ立場が悪くなると、私達が電話を掛けても出ない、掛けなおしてもこない、ようやく話ができても「私は雇われの身で決断できない、関係ない」と言い続けました

ご本人が権限がないといくらおっしゃってもゴルフ場の実質的なトップである以上、関係ないわけではないと思います

私に競技委員をやってくれと高橋氏経由で頼み、自分のやりたいことの希望や要望を私達に話し、それを形にして欲しいと自分の都合の良い時だけ自分勝手に私達を使ってきたはずです

また以下に挙げる発言もしています

- ・「私達が正論を言っていることを認めているが平原会に逆らえない」
- ・「その平原会も派閥があり会の内部は上手くいっていない、2,3年すれば人も変わるのでそれまで我慢して欲しい」

- ・最近の私との電話でも「こんなことをされたら迷惑なのですよ」などと言い放ちましたそれにもかかわらず、私達二人に戻って会報作りを手伝ってもらえないかとおっしゃったと聞いています

それを高橋氏から聞かされ、私は冗談で言ってるのか本気で言ってるのか、よくもそんなことが言えたものだと驚きました

支配人の発言についてはこの後でも紹介させていただきます

#### ●室長

昨年末、仕事上でもお付き合いのある会員からも私達と同じ指摘を受けているはずですがその場ではその会員からの指摘にある程度の理解を示していたと聞いています私達だけが石狩平原への違和感を感じて申し上げているわけではないとおわかりいただけたと思いますし、室長自らもお感じになっていたことではありませんか何とかしなければ・・・とそれでもお思いにはなりませんでしたが

#### ●田沢委員長

「高橋さんを競技委員に推薦したものの、こういうことになって高橋さんの顔をまともに見られない」と支配人にお話しされたと聞いています

会社で言うならば、私達は田沢委員長の部下でした

このような事態になる前に上司として部下である私達に話す機会がいくらでもあったのではありませんか

そう思うと残念でなりません

●吉岡委員長

今回の私達が作成した抗議文書をご覧いただき、私達が競技委員として行動していたことを評価してくださったと支配人から聞き、嬉しく思います  
ありがとうございます

しかし残念なのは私達のハンディキャップについてです

私はプレイ日を変更するなどの処理で正当なハンディキャップを取得できましたので、これまでの経緯を面白く思っておりますがとやかくは言いません

しかし高橋氏のWDについてはクラブ側が吉岡委員長への報告を怠るというお粗末な対応であったとは言え、吉岡委員長がWDの事実をお知りになった時点で早くに動き、被害にあった本人に対しハンディキャップ委員長として率直に事情説明をし、クラブ側と共に正式な謝罪をいただきたかったと思います

何故それができなかつたのでしょうか

●清藤様

吉岡委員長と同様で、何故、私達のハンディキャップの申し出に耳を傾けてくださらなかったのですか

日頃のゴルフ場での清藤様の私達への態度を考えるとハンディキャップに関しては悪意を感じます

支配人は清藤様の過失だとおっしゃいますが、過失ならばその時点で私達への報告と事情説明、J-s y sなどの各組織へ取るべき行動が迅速に行われていたのではありませんか

人の手で行なわれていることですから間違いは当然あります

しかしその間違いが起きた時にどのように対応し処理をするかで物事の方向性が決定されますし、当事者間の互いの信頼関係を構築、保持する上で重要であることをご承知おきいただきたく思います

●理事長

今日は理事長の一声でこの場を設けてくださったと伺いました

最初に申し上げましたが、これがもっと早かったら・・・と思うと非常に残念でなりません

いずれにしてもありがとうございます

過去の会報を拝読いたしました

また北海道ゴルフ連盟からも石狩平原が破綻した時期の理事長の話を伺いました

当時の理事長の相当なご苦勞が想像できますし、それだけにこの石狩平原に対する思いが強いと思います

私達も同じです

高橋氏も破綻する前からの会員ですし、私はまだ数年ですが人生初めての会員コースです  
それ故に、より良いゴルフ場にしたい、知人を連れて行っても自慢できるコースにしたい  
と思うのは当然のことではないでしょうか

私達は純粹にそれだけを思ってこの数年間を競技委員という立場を借りて皆様に連絡、報告、相談をしながらお願いをして参りました

その競技委員も私達がやりたくて自らが立候補して務めたわけではありません

クラブ側から頼まれてやっていたにもかかわらず、競技委員として受け入れてもらえず、客としても認めてもらえず、最後はこのようにクラブ内において力のある皆様が勢揃いして私達をつぶしにかかろうと誰が見てもフェアではない話し合いに放り込まれた私達は空しく悲しい気持ちでこの場にいることをお伝えしておきたいと思います

最後に、

今回の件で私達は様々な方々と話をし、アドバイスをいただきました

それによって他の会員の気持ちや意見はもちろんのこと、外部の方々が見る石狩平原の評判、評価も聞くことができました

それが私達と同様であったことに安堵すると同時に、やっぱりか・・・と落胆したのも事実です

ここにいる皆様はAクラスばかりで、委員会、平原会に所属している方々も然りです  
ゴルフの知識、技術にたけている方ばかりですが、Bクラスの会員のプレイや技術を批判していたことを私はよく耳にしていました

しかし、敢えて名前を言いませんが、皆様の中にも挨拶をしても挨拶をしない、話もしない、スコアの過少申告をする、エチケットマナーのなっていないプレイ、言動を行なっている方々がいることをお忘れにならないでください

そういう皆様がBクラスの会員を批判する立場にはないと私は思っています

女性会員についても同じです

女性のチャンピオンを決めるのに、また公式戦なのにレディースティでのプレイはないだろうという皆様の声で女性の使用ティを再び改めたと伺いました

私は過去の合同委員会で、距離が長い、男性会員の言動が嫌だという理由で月例会への参加人数が少ない、レディース杯の開催ができなかったというアンケート結果を報告しています

これまでの経緯を皆様はお忘れなのでしょうか

ご本人には申し訳ありませんが、今年の女性チャンピオンを例に挙げます

1. レディース杯後のラストコール杯での使用ティもやはりその方はレディースティを選択なさいました  
私も皆様と同様にチャンピオンたるものがレディースティを使うのか、チャンピオンならば本来のクラスのティからプレイをして欲しいと思いました
2. 過去にキャディの経験のあった方のように、競技後のアテストの方法をまったくご存知ありませんでした
3. シニア会の要職を務め、その会の女性会員の中心的存在の方のように、私が競技委員として月例会への参加をお願いしても適当な答えが返ってくるばかりで参加してくれませんでした

これが石狩平原の女性チャンピオンの現実の姿であると同時に他の女性会員の現状にも重なります

皆様が考えているほど石狩平原の女性会員のレベルは他コースの女性と比べ、知識、技術共に決して高くありません

そういう方々に対しゴルフのお上手な皆様の理想を求めてもこれまでと同じ繰り返しになると思われます

今後は平原会の皆様が公式戦を牛耳ると伺いました

私はもちろん公式戦には出ませんし、立場も関係ありませんが、参加してくださる女性会員を優しく受け入れ、大切にしてくださる運営をしていただきたいと思います

これまで大変お世話になりました

またこのたびの件では良い意味でも悪い意味でも勉強をさせていただきました

ありがとうございました

原田 真由美